

## 第1回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時：令和5年7月4日（火）9：30～11：57
- 場 所：三田市役所南分館6階 601AB会議室
- 出 席：吉田委員、藤原委員、下中委員
- 事務局：鹿嶽教育長、浅野学校教育部長、外岡学校教育部参事（学校再編担当）、井上教育総務課長、久保教育総務課担当課長、上野学校再編課長、田中学校教育課長、市原教育支援課長、小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長、藤田幼児教育振興課長、神影健やか育成課長、靱井教育総務課係長
- 傍聴者：なし

### 1 開会

### 2 教育長あいさつ

- 3 会議の公開及び傍聴      公開  
傍聴人なし

### 4 委員紹介

- 5 委員長選任・委員長あいさつ  
・委員長は、吉田委員に決定。委員長あいさつ

### 6 議事

- (1) 「令和5年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（令和4年度事務対象）」【素案】について  
・【素案】説明（各担当課・所）、質疑応答（質疑応答の詳細についてはP2～P8）
- (2) 「点検・評価委員の意見」の記載について  
・（資料1） 資料説明  
・各委員に8月1日（火）12時までの提出を依頼
- (3) 今後の日程  
第2回三田市教育委員会点検・評価委員会  
令和5年8月9日（水）9時30分から

### 7 閉会あいさつ

### 8 閉会

**【令和4年度教育委員会の活動状況、前年度の点検・評価委員からの意見に対する取組、『さんだっ子かがやき教育プラン』5年間の目標に対する実績一覧（令和4年度実績）について事務局から説明】**

委員長 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分注意したうえで、3年振りに学校訪問が再開されたことに安心しました。3年振りの学校訪問での印象についてお伺いします。

事務局 ・コロナ禍での学校生活において、感染予防の観点から子どもたちもペアトークなどを控えていたため、以前の学校生活と比べ、ぎこちない印象を受けました。  
・授業の様子も子どもたちは前を見て、しっかりと先生の話聞いておりました。課題に対し子どもたち同士でディスカッションするという状況はありませんでした。

委員長 ・教室運営をコロナ禍から立て直すのに時間がかかるのではないのでしょうか。

事務局 ・今年の学校訪問では、特に低学年についてはマスクを外して、去年に比べて和やかで活発な状況を確認し、安心しているところです。

委員長 ・コロナ禍で対話が減っていることが心配でしたが、令和4年度から少しずつ活気が戻ってきており、学校生活における明るい材料であり安心しました。

**【基本施策1・2 事務局から説明後、質疑応答】**

委員 ・個票7「読書活動の推進」について、指導の重点4「学校司書配置事業」の取組が「△」となっています。現在、各学校司書は複数の学校を担当（兼任）されていますが、今後、学校司書の配置人数を増やす計画はありますか。

事務局 ・10名の学校司書が複数の学校を担当し、すべての学校に学校司書を配置しており、各小学校において読書活動の推進、読書環境の整備・改善など読書教育の最前線で活躍していただいております。予算・人事とも相談し今後も拡充を検討してまいります。  
・入れ替わりも少しずつ進んでおり、新たに学校司書として着任された方について資質向上研修に努めてまいりたいと考えております。

委員 ・学校司書は多忙のため、複数校を担当することから混乱しないように、学校司書同士の情報交換の場も設け、そして研修の場を増やしていただきたいです。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理科が好き」の項目についての課題が大きいと感じます。教員自身の理科離れという説明もありましたが、理科という科目は日常生活にも近く、とても身近に感じるができると思います。ただし理科に限らず、今の学習指導要領では、国語科にしても算数科にしても全て生活に結びつけていくことになっています。一番生活に結びついている理科でさえ、「好き」と答える子どもの割合が伸び悩んでいることに少し不安を感じます。</li> <li>・三田市にはこうみん未来塾などとてもよい素材があるので、学校での理科教育においても活用する取組を進めていただきたいと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにはタブレットを通じた映像を用いた授業が増えており、かつ、遊びでもゲームが中心で、家で遊ぶことも多く、実体験として自然に触れる機会が減ってきています。折角、三田には豊かな自然があるので、自ら出向くような経験が増えればよいように思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ではタブレット端末の配置は進んでいますが、小学校ではどうですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においても、中学校と同様に1人1台のタブレット端末を配置しております。ただし、低学年については、発達段階に応じて、読み、書きの基本も大切であると考えており、タブレット端末を段階的に活用してまいりたいと考えております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末をはじめ多くのICT機器などを一気に導入し、子どもたちの教育環境を向上していただいたのはとてもよいことですが、タブレット端末のバッテリーなど機器としての寿命も一度に訪れるのではないかと心配しています。サポート面について保護者、子どもたちが安心して使えるようになればよりよいと考えます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットはそれぞれの子どもたちの使い方によると思いますが、安心して使えるようになればよいと考えます。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が進めたギガスクール構想により一時期に導入されたタブレット端末の更新問題などが懸念されます。今後は、文部科学省の動きなども注視し、子どもたちや保護者がより安心・安全にICT機器を活用できるよう研究してまいります。</li> </ul>
委員	<p><b>【基本施策3・4 事務局から説明後、質疑応答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒だけではなく別室登校の児童生徒も増加すると考えられますが、どのような支援を行っていますか。</li> </ul>

事務局	・大規模小学校（4校）では対象児童2、3人に子どものこころの支援員1人を配属し、中学校の多いところでは対象生徒10人に子どものサポーター1人を配属して支援しています。
委員長	・コロナ禍の影響は大きいと考えられますか。
事務局	・小学校は令和元年度、中学校は令和2年度から不登校児童生徒の割合が急激に増加しており、コロナ禍の期間と重なることから、何らかの関係があるのではないかと考えています。
委員長	・あすなろ教室の対応余力はどのようになっていますか。
事務局	・あすなろ教室は4人の指導員で対応しています。現在、まだ受け入れは可能ですが、通所児童生徒は増加傾向にあり、更に、子どもや保護者からの相談も増えてきています。また、公立小中学校だけではなく、公立以外の学校に就学している児童生徒やその保護者からも相談が寄せられており、その対応にも注力していただいているところです（令和5年度はこれまでのところはない。）。
委員長	・あすなろ教室では教育委員との懇談があったと聞いていますが、どのような懇談会だったのかを伺います。
事務局	・指導員と教育委員との懇談で実際にあすなろ教室を訪問して意見交換しました。 ・コロナ禍で「休んでも構わない教育」に移ったことに関する対応や、小学校の低学年から不登校になることも出てきていることなど、あすなろ教室での状況や不登校から学校への復帰などの成功事例の説明を受けました。
委員長	・コロナ禍が、子どもたちのこころにも影響があるようなので、その対応も必要と考えられます。
	<b>【基本施策5・6 事務局から説明後、質疑応答】</b>
委員	・地域の祭りにかかる問い合わせにおいて、提灯行列の案内をさせて欲しいと自治会に行くと、加入率が低下しているので難しいと言われ、また、学校に行くとPTAが任意加入となっているので、全家庭に情報がいきわたらないと言われました。昨年度から三田小学校もPTA任意加入となっています。
委員	・PTA活動や自治会活動で忙しくなるのは対応できないという家庭が増えてきています。そのような中、地域と学校の話し合いが不十分な場合もありま

す。学校施設を利活用し、コロナ前までできていたことを地域が学校に依頼したところ、学校からは丁寧な説明がないまま許可できないとの回答がありました。学校内での飲酒を伴うイベントの開催について、学校から不許可とする判断は一定理解できますが、地域に対して丁寧な対話を通じて説明していただきたいと思います。

事務局

・学校施設を目的外使用する場合は、学校施設のことを最も理解し、管理している学校とよく話し合っていたらうえで、学校側の理解を得ていただきたいと考えております。未成年である児童生徒への教育上の影響を鑑み、学校長が判断してまいります。

委員

・防災キャンプなどを通じて事前に体育館での避難体験などを行うことで、被災時の生活の状況が前もって理解でき、実際の避難生活を送るうえでとても有用であると考えられます。学校側からは 22 時以降の学校施設の目的外使用ができないという規制がかかっているという回答のみであり使用目的の教育上の有用性も検討していただきたいと思います。

・教育の観点から学校施設の目的外使用が不許可となる場合があることは理解できますが、学校から地域への丁寧な対話をお願いしたいです。

・コロナ禍以降、学校と地域との情報交換の場が減ってきている点も懸念しています。

・祭りなどは地域の伝統行事として考え、授業に取り組むこともできるのではないのでしょうか。

・学校地域運営協議会も年に数回程度しか開催されていません。

事務局

・法に基づくコミュニティ・スクールの進め方では地域からも学校に対して、意見を伝えることができるようになりましたが、学校も地域に向けて情報発信を豊富に行っていくこととなります。コロナ禍での生活様式が変わったこともあります。一足飛びにこれまでの三田型コミュニティ・スクールから変化していくことは難しいと思いますが、今後とも対話を重ねていくことで、学校、地域双方により良い状況に変化していくことが重要と考えています。

委員長

・それぞれが良い方向を見ているのですが、噛み合わないジレンマがあるように思うので、丁寧に話し合いを続けていく必要があると思います。

#### 【基本施策 7・8 事務局から説明後、質疑応答】

委員

・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携の推進について、具体的な取組としてどのようなことをお考えなのでしょうか。

事務局

・放課後児童クラブは「保育」であるため、利用要件（保護者が週 4 日の勤

務など)があり、利用できない家庭もあります。放課後児童クラブを利用している子どもについては居場所の確保ができていますが、放課後児童クラブを利用できない子どもについての居場所づくりを考えていきたいと思えます。

- ・放課後児童クラブや放課後子ども教室のどちらかまたは両方で子どもたちの居場所づくりを確保していきたいと思えます。

委員

- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の両方に加入している子どもたちは普段一緒に遊べない子どもたちが一緒に遊べるという利点がありますが、放課後子ども教室のカリキュラムの時間と放課後児童クラブの時間が噛み合わず、放課後児童クラブへこの時間に帰ってきて欲しいということがあります。双方の情報を共有できる場があれば子どもの放課後の居場所としてより良い運営ができるのではないかと考えます。

委員長

- ・学校支援活動促進事業と放課後児童クラブは別のものなのですか。

事務局

- ・学校と地域をつなぐ事業である学校を支援する活動として授業やイベント(文化祭、運動会)、登下校の見守りなどで学校支援ボランティア(登録者)が授業などをサポートしています。

委員長

- ・それを学校地域支援活動が総称しているということですね。

委員

- ・年度はじめにいただいた放課後子ども教室の資料では、学校の先生方を補助する活動を入れること、とあるが、どのような支援を想定しているのかが分かりにくいです。学校支援ボランティアとの区切りがあいまいになって、どこまでさせていただければいいのかわからないです。

事務局

- ・地域と学校を結び付けていただき、地域人材の発掘、活用を企図してコーディネートしていただけるよう推進を図っていきたいと考えています。
- ・当日の講座について、講師との調整なども考えています。

#### **【基本施策9・10 事務局から説明後、質疑応答】**

委員

- ・ボランティアで授業に入ったとき、ある先生がICT機器を活用しており、素敵で素晴らしい動画を作成していました。同様にそのような動画などを作成されている先生方もいらっしゃると思いますが、それらを共有できたらよいと感じることがあります。

- ・教員間の情報交換ができたり、共有する時間はあるのでしょうか。専科制になれば、先生が複数のクラスの情報を共有する時間が確保できるのでしょうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で教員間の情報共有の時間を毎週設けています。</li> <li>・各学年に推進教員を配置している学校もあり、組織的に取り組んでいる学校が出てきています。</li> <li>・市内の好事例について学校を超えて共有していくよう研修しています。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方がよい動画教材であることを理解できていないこともあるので、ボランティアさんから教員によかった点について伝えてあげるのがよいと思います。それにより学校も地域もお互いに助かると考えられます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども110番は自治会が1軒1軒回るのは難しいので、広報を活用するなどが必要ではないでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に負担がかからないような方法を検討してまいりたいと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こうみん未来塾は子どもたちが面白いと思わないと進みませんがどのように考えていますか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探求コースでは、学びを深めていただきたいと考えています。それはやはり上級者を想定したコースとなっており子どもだけではなく保護者からも勧めていただければと考えています。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こうみん未来塾と学校教育との結びつきはないのですか。</li> <li>・理科の研究グループと組み合わせ、カリキュラムに入れることはできないでしょうか。</li> <li>・三田の子どもは「川本幸民」がしてきたことを体験していけないでしょうか。</li> <li>・三田の子どもが三田の先人に学ぶという位置づけが必要と考えます。</li> <li>・カリキュラムとして上げていただきたいです。</li> <li>・三田市全庁で意識して欲しいです。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科がわからないと社会科にもつながりません。自然現象や植物の植生についても同様と考えます。</li> <li>・プログラム一覧表に理科の単元や学年を記載するとよりよい工夫となります。</li> <li>・本物を体験することが大切です。火起こしを例にとっても、やわらかい木と硬い木との摩擦でやわらかい木が削れていき着火することを先生が体験しわかることが大切です。ただ単に同じ硬度の木と木を擦り合わせても着火しません。また、冷凍庫を開けると室温との差により白い冷気が発生することを目にするのがひいては気象現状にもつながります。そのような体験を先</li> </ul>

生も感じる必要があります。つまり日常でも体験できる現象を学術につなげるような仕掛けが必要と考えています。

委員 ・こうみんプログラム一覧は学校の先生も把握しているのでしょうか。先生まで情報が伝わっていないのではないかと感じる場合があります。

事務局 ・校長会を通じてプログラム一覧を情報提供していますが、各学校で全ての先生にどのように情報が伝わっているのかまでは把握できていません。

委員 ・現場に立たれる先生方にもメニューを把握できるようにして欲しいです。

委員長 ・チャット GPT の導入予定を教えてください。

事務局 ・まもなく国からの通知があると思います。子どもたちが適切に使用するための指導が大切であると考えています。  
・国からの通知があり次第、学校に通知し情報共有をしていきます。

委員長 ・三田の教育は転換点を迎えようとしています。幼児教育は幼稚園から認定こども園への移行、統廃合などの時期は大切ですので、丁寧に進めていただきたいと感じております。  
・他市でも認定こども園へ移行により、これまでの教育のよりよいところもしっかりと残しているところもあります。就学前教育と義務教育とのスムーズな接続を続けていただきたいと思います。

<閉会>